

【評議員会議事録】

日 時：2009年3月26日（木）12：00～13：10

場 所：大阪府立大学総合教育研究棟1 F会議室

出席者：海部，郷田，柴田，須藤，渡部，坂田，杉山，筒井，望月，山田（以上10名）

有効委任状提出者：岡村，中川（以上2名）

欠席者：井上，永田，宮川，家，池内，佐藤，谷口，観山（以上8名）

他に國枝理事長，渡邊副理事長，竹田・高田庶務理事，田代・田村会計理事，本間年会理事，東條事務長が出席した。

（なお柴田副理事長は評議員も兼ねているので両方の立場からの出席となる。）

議事に先立って議長と署名人の選出がなされた。

議 長：渡部潤一

署名人：須藤 靖，杉山 直

報 告

1. 前回議事録の確認

前回（2009年1月31日）の評議員会の議事録（資料1）についての確認がなされた。

2. 開催中の年会について

本間年会理事より目下開催中の春季年会のこれまでの進行状況（朝日，毎日，読売，産経の四紙の取材があった記者会見，産経紙に掲載された銀河中心ブラックホールの研究成果，現時点での参加者数，正規セッション，総会，各種特別企画，など）が報告された。

3. 今後の年会について

前日の理事会で，今後2年間の年会〔2009年秋（山口大：9月14～16日），2010年春（広島大：3月24～27日），2010年秋（金沢大：9月22～24日）〕を担当する各開催地理事から準備の進捗状況の報告があったので，その内容を竹田庶務理事がまとめて述べた。いずれも特に大きな問題も無く順調に進んでいる。また，引き続き，2011年と2012年の年会開催地の選定作業状況が竹田庶務理事より報告された。2011年春は筑波大学，2012年秋は大分大学に決まり，残る2011年秋と2012年春はいくつかに打診中である。

前日の総会で「春の年会時期が卒業式とかぶってしまう傾向があるので困る」との会員からの指摘があったこともあり，年会の日程の決め方も話題になった。現状では開催地の大学の行事に合わせて時期が選ばれており，あまり自由にはならない点はあるが，状況の許す限り他の学会などの開催時期と重ならないような配慮をお願いする努力をするこになった。

4. 入会と退会（除名）に関する方針について

竹田庶務理事より，最近の具体的な事例に即して，入会と退会（除名）の手続きに関する問題点が報告され，それについて意見の交換があった。

入会に際しての正会員の資格は，天文学を学ぶ学生についてはある程度明確に記されている（大学卒程度の天文学の知識を有すること）ので「大学院生以上」という目安が設定されているのに対して，一般の場合は曖昧であるために実質上資格審査がほとんどなされておらず，学生の場合と一般の場合でダブルスタンダードになっていることが問題となっている。これについては「以前採用していたように正会員入会申請者には他の正会員の推薦を義務付けることを復活させてはどうか」，「それは実質的にはあまり機能しないと思われるので理事会での資格審査をもっと厳正にしたほうがよい」，などの意見が出された。いずれにせよ何らかの手を打つ必要があるのは確かなので，以前特別会員/通常会員から正会員/準会員に移行した際になぜ推薦の義務付けを撤廃したのかのいきさつを調査するとともに，入会申請にあたっては経歴や入会目的を詳細に記入してもらおうべくフォームの改訂も検討することになった。

会費滞納者が退会する場合はまず滞納分を完済してもらってから正式に退会届けを出して退会が成立する。幾度も督促状を出しても応ずることなくいつまでも滞納を続ける会員は退会ではなくもっと厳しい除名処分となる。現行の規則では滞納が1年続けば除名にできるのであるが，実際は更にもうしばらく待って督促を続けてから除名の執行を行うことにしているため，このタイミングをどうするかという問題が現場サイ

ドで持ち上がっている。これについては「除名は恥ずべき処分であることを明確にするためにペナルティの意味も含めて除名者と退会者ははっきり区別して公表すべきではないか」（現在は除名者もあえて退会者と一緒にして区別せずに天文月報に掲載している）との意見も出された。またこれに絡む事柄として、長年務めた会員などを念頭に置いて、名誉会員や終身会員の制度を考えてもよいのではないかとの声も出た。

5. 巡回展示について

柴田評議員（副理事長）より日本天文学会が共催する世界天文年の展示会（本年5月から東京～仙台～新潟～名古屋～大阪と全国各地を巡回）について、前日の総会でも出席者を前に報告したことが簡単に述べられた。「全国各地と言っても九州や北海道など巡らないところがあるのは残念だ」、「世界天文年日本委員会と共に共催団体であるにもかかわらず天文学会の存在がはっきりしてないのもっと学会が目に見える形での世界天文年イベントも考えるべきではないか」、などの声があったのを受け、「夏の七夕の時期あたりを目処として天文学会の肝入りで講演会などのイベントを大々的に全国的規模で同時に行って世界天文年を盛り上げてはどうか」との意見が出され、一同異論はなく早速企画に着手することになった（担当は柴田副理事長）。

6. その他

6.1 男女共同参画関連の催しについて

天文学会理事長名で科学技術振興機構(JST)に申請していた平成21年度「女子中高生の理系進路選択支援事業」（男女共同参画委員会、代表：林 左絵子氏）の補助金が認められた件が男女共同参画委員でもある望月評議員から報告された。これを受けて、女子中高生を主な対象としつつも、男女・世代の別を限らず天文学の教育・普及事業を推進する催しが、本年度はさらに活発化することになる。具体的には、ハワイの女性研究者を日本に招いての講演会、望遠鏡製作の現地体験、一日天文台員の経験企画、などが西はりま天文台、和歌山大学等を中心に国内数カ所で行われる。また同事業で採択された独立の企画として、女子中高生参加の夏の学校（国立女性会館、男女共同参画学協会連絡会）、京都での関西科学塾（代表：柴田評議員兼副理事長）があり、どちらも天文学会関係者が深く関与しているので、学会の企画と互いに協力して進めることになる。海部評議員から女性の天文学者の数は日本はまだ欧米に比べると少ないとはいえ、1985年以降は急増する傾向が見られるのは面白い、とのコメントがあった。

6.2 天体発見賞・天文功労賞の選考について

会員である佐藤勲氏から天体発見賞・天文功労賞の選考に関する疑問がtennetに提出された件につき、前日の理事会でも報告した以下の内容が國枝理事長から述べられた。

-事実関係を明らかにするべく、天体発見賞選考委員長など関係者とも話し合っただけで状況を調査し、以下の見解に至った。

-受賞者の資格・所属の判断については相互に認識のずれがあるようだ（委員会は土井氏はJAXAの職員で米国に出向中と見なしている）。

-超新星発見はやはり天体物理学では特にインパクトが大きいものと考えたい。

-天文功労賞は単に発見数の大小で決めるわけではなく総合的に判断している。

-選考委員会のメンバーに関しては、公共天文台の関係者を加えるなどアマチュアに対する配慮もしている。ただ特定人物があまりに長く委員を続けることは好ましくないため、もしそういう事例があれば対処を検討するべく、該当するケースの有無をまず調査する。

「受賞者については委員会が独断で指名して決めるのではなく、あくまで外部からの推薦に基づいて決定するという開かれたシステムになっていることももっと広く知ってもらいたい」との意見も出された。いずれにせよ、会員の声は真摯に受け止めて誠意を持った対応をすべきなのでどのような形で回答をするかについても話し合われた。

[次回の評議員会について]

次回の評議員会は6月27日（土）の午後に行われる。場所は未定だが東京駅近くの会議室を借りることを検討中。

2009年4月9日

議長 渡部潤一 二

署名人 須藤 靖二
署名人 杉山 直二